

ささえ、ささえられて
ホッと、安心～みんなの笑顔

知ってほしい 福祉の 話

このコーナーでは、福祉の制度やよくある質問についてお知らせします。

第14回目は【緊急通報システム】についてです。

○緊急通報システムとは・・・

緊急通報システムとは、一人暮らし老人などの日常生活における『もしもの時』に備えるためのシステムです。

このシステムは、無線用ペンダントと緊急通報装置からなり、緊急ボタンが押されると消防本部内に設置された緊急通報センターが送受信を行い、情報を受けた消防署は、速やかに一人暮らし老人などの救助、援助に向かいます。

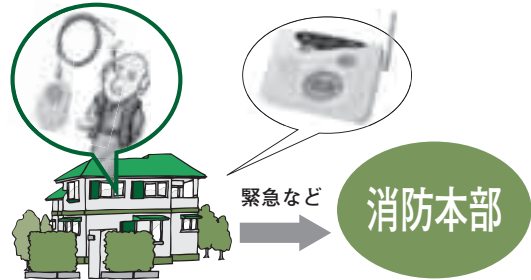
○利用できる方

- ▷70歳以上の一人暮らしの方
- ▷身体障害者手帳の交付を受け、障がいの程度が1級から3級までの一人暮らしの方
- ▷寝たきりの高齢者のいる70歳以上のみの世帯の方

○協力員について

緊急通報システム機器の貸与を受ける方1人に対し、緊急時に迅速に対応できる3人の方（例：市内

の身内、近隣の方、地元民生児童委員）の承諾が必要です。



○費用

- ▷緊急通報装置本体用電池 2,200円
- ▷ペンダント用電池 400円

○申し込み方法

土岐市緊急通報システム利用申請書を市福祉課に提出してください。申請書は市福祉課で交付のほか、市ホームページからもダウンロードできます。

問い合わせ 福祉課高齢者係（内線159）

一人ひとりが人権を
尊重する社会を目指して

人権のひろば



前回は市民意識調査の概要と人権全般について、調査の結果をお知らせしました。
今回から、多岐にわたる人権問題について、市民の皆さんの意識を、人権の基本項目ごとにお知らせします。
※調査結果は、市ホームページでもご覧になれます。

女性の人権

女性の人権で特に問題だと思うことは「家事・育児や介護などを、男女が共同で担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと」（34.0%）が最も多くなっています。

女性の人権尊重に必要なことは「女性が家庭生活と職業の両立ができるよう環境の整備を図る」（45.0%）が最も多くなっています。仕事と家庭生活の両立（ワーク・ライフ・バランス）は、男女共同参画計画・後期次世代育成支援行動計画でも大きなテーマとしてクローズアップされており、家庭でも職場でも男女が共同で担うことができる社会の仕組みが求められているといえます。

女性の人権問題について特に問題だと思うこと（上位）	
家事・育児などを男女が共同する仕組みの未整備	34.0%
職場における男女の待遇格差	24.8%
性別による固定的な役割分担意識	20.6%

子どもの人権

子どもの人権で特に問題だと思うことは「仲間はずれや無視、容姿に関する悪口など、身体への直接攻撃や相手が嫌がることをしたり、させたりするなどのいじめを行うこと」（53.3%）が最も多くなっています。

次に、児童虐待を発見したときの対応については「学校や子ども相談センター、県や市の福祉窓口などに知らせる」（59.5%）が最も多く、反面「どこ（誰）に知らせたらいいのか分からない」（20.6%）が次いで多くなっていました。

また、子どもの人権擁護に必要なことについて尋ねたところ、「地域の人々が他人の子どもに関心を持って接する」（45.5%）が最も多くなっています。

児童虐待発見時の対応（上位）

学校や子ども相談センター、県や市の福祉窓口などに知らせる	59.5%
どこ（誰）に知らせたらいいのか分からない	20.6%
民生児童委員に知らせる	11.8%